



北海道廳野付牛中学校  
北海道廳立北見中学校  
北海道北見高等学校  
北海道北見北斗高等学校

# 東京 とぎの美

### 〈発行〉

東京とどの実会 事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島4-6-11  
湯島ハイタウンA-207  
<http://www.tokyo-todonomikai.com>

Mail y-maeda-go@mua.biglobe.ne.jp  
Mobile 090-8874-5239

同窓生紹介

# 子どもの世界を 描き続けて

昭和40年卒  
長谷川 知子さん（画家・絵本作家）

近著「子ヤギがうまれたよ!」(新日本出版社刊)では、表紙から元気な子どもがいっぱいです。新宿区立東戸山小学校のこども

自身で手がけた「がつこうにヤギがきた！」シリーズの三巻目。小さな命の誕生を見守つた子どもの姿がいきいきと描かれています。

京とどの実会の幹事も引き受けさせていただいている長谷川知子さんに、お話を伺いまして。た。

中央小学校 南中 北斗と北見二子 小学校3年生くらいの時から漠然と将来は絵描きになりたいと思っていたそうです。武蔵野美術短期大学デザイン科卒業後東京での就職に失敗して北海道に戻り、小樽の広告代理店に勤めるも三ヶ月で脱落、母校の



後半、挿絵を描いた恩師安藤美紀夫先生作の「おかあさんだいつきらい」(童心社刊)は、その年の小学校中学年部門で課題図書に選定され32万部も売れたとのこと。課題図書はその後「さくらんばクラブにクロがぐものむこうに」(古田足日作佐石崎書店刊)でも再度選定されています。1979年には「ひつじみばん」(寺田晋治詩 子どもの未来社刊)はアマゾンの児童書部門で売上げNo. 1が半年間も続いたそうです。昨年は、町田市民文学館ことばらんどで2ヶ月にわたり「1ねん1くみ1ばんサイコー! 後藤竜二×長谷川知子展」が開催され、代表作の「1ねん1くみ1ばん」シリーズ(後藤竜二作ボプラ社刊)を中心に原画百点余り展示するなど、現在まで精力的な作家活動をされています。

子どもの本の絵書きなるきつかけはフランス映画「にんじん」に出会ったこと。赤い髪、そばかすだらけの主人公にんじんの顔を画面で見たときに衝撃を受け、私が描きたいのはこれと思ったとのこと。最近は、少子化やコミック誌などの影響で絵本はなかなか売れないこととか、子どもの本業界の作家と画家の印税率の割合など、絵本作家を目指す人には厳しい現状ということですが、ご自身は、10年習っているピアノで「白い恋人たち」を弾く時間も大切にしつつ、これからもずっと楽しい絵本を描いていきたいと話す長谷川さんに、絵本に対する情熱を感じたひとときでした。

# 良き伝統を継承し北見北斗のさらなる発展を！

北見北斗高等学校長 千葉 浩次

東京とどの実会会員の皆様には、日頃から母校の教育活動に、多大なるご理解とご支援いただいていることに心から感謝申し上げます。

さて、私は北見北斗高校に赴任し二年目を迎えています。昨年度は「東京とどの実会」、「札幌とどの実会」、そして北見市で開催の「とどの実会役員会・懇親会」などに出席させて

いたい、たくさんの中の皆様とお話しする機会をいただきました。先輩の皆様の母校を思う熱い気持ちに触れ、本校の歴史と伝統を感じるとともに、本当に素晴らしい学校に赴任したとつくづく感じました。

平成27年3月の卒業生は、進学も

頑張り、国公立大学医学部医学科に現役6名、浪人3名の合わせて9名が合格、北大には現役16名、国公立大学の現役合格者が延べ一二三名と、ここ数年では最高の実績を残しました。これは、生徒の早い段階からの高い志と最後まであきらめない努力の結果であります。諸先輩たちの作り上げてきた『伝統の強み』のお陰だと思つております。

また、昨年度は、残念ながら甲子園出場の夢は果たせなかつたものの、野球部



が春と夏の全道大会2大会連続で順決勝まで進出し北見北斗の存在感を全道にアピールしたこと、陸上部員3名が全国高校総体（インターハイ）に出場したこと、さらに文化系でも吹奏楽局が全道高文連大会で奨励賞を受賞、美術部2年生の作品が全道高文連大会で優秀賞を受賞し平成27年度滋賀県で開催される全国総文祭推薦作品として出展が決まるなど、まさに「文武両道」の建学の精神を受け継ぐ素晴らしい活躍を見せてくれました。

今後もこれまでに引き続き「文武両道・質実剛健」という素晴らしい建学の精神をしっかりと受け継ぎ、これから北海道を担い、日本そして世界に貢献できる人材の育成に向けて、全教職員が一丸となつて努力して参ります。今後とも、東京とどの実会の先輩の皆様のご理解とご支援・ご協力をたまわりますよう、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、東京とどの実会のますますのご発展と会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶と近況報告とさせていただきます。

今年の散策案内  
歴史を辿って赤坂の「坂」を歩く

初夏の都心を「坂」をテーマに散策します。六本木一丁目駅で集合後、南部坂（大石内蔵助が瑠泉院に別れを告げた「南部坂 雪の別れ」の舞台）、赤坂氷川神社、日枝神社・山王稻荷、丹後坂、豊川稻荷東京別院（妙巖寺）、弁慶橋、大久保利通ゆかりの清水谷公園、紀尾井坂と巡って、四ツ谷の会場を目指します。赤坂は江戸時代には花街として知られ、明治以降は軍人と政治家、官僚の街となりました。

一九六〇年のTBS誕生でお洒落な街に変貌し、東京オリンピックでも大きく変容を遂げました。そんな時代の流れを体感しつつ、坂の多い街並みを歩きます。会場到着後は今年も更衣室とシャワー室の用意があります。



赤坂日枝神社の鳥居（左）と南部坂

## 第64回 東京とどの実の集い

「散策・皇居東御苑から市ヶ谷まで」報告

昭和47年卒 生駒 篤



2年前の二〇一二年10月リニューアル・オープンしたばかりの東京駅。真新しい丸の内北口のドームは莊厳な佇まいで、まるでヨーロッパの宮殿に迷い込んでしまったようです。午前10時、28期から56期までの総勢21名が集まりました。ドームを後に、オフィスビルの間をすり抜け、お濠沿いを歩いて皇居には大手門から入城しました。石垣は所々色違いになつてゐるのですが、これは、傷んだ石を隨時新しいものに置き換えていたためと思われます。大きさはバラバラなのに隙間無く積み上げられ、幾何学的な美しさに目を奪われます。スケールの大きな『職人芸』に頭が下がります。中の芝生や樹木は良く手入れされていて、植栽は原

始の関東平野の植生が尊重され、マツの広葉樹が花や実をつけています。たわわに実るヤマモモの赤い実、タイサンボクの大きな白い花に歓声があがります。「都道府県の木」のコーンでは、北海道の木をチエック。無論「エゾマツ」なのですが、「(我が)トドマツ」でなくて少し残念でした。

警護の侍たちが詰めた「百人番所」「大番所」は大きいのですが、質素な造りです。「仲雀門」を過ぎると核心部、「本丸跡」に至り、「松の大廊下跡」、「大奥跡」はまだ広い芝生になつています。想像力を逞しくして、一時頭の中が時代劇になつてしましました。眺めの良いところで記念写真をと思い、小高い「富士見多門」まで登り、アジサイに囲まれた小道で集合写真の撮影。「天

主台」は石垣の「基礎部分」のみ残されています。20mほど坂道を登つてみた上は、二〇〇～三〇〇平米のちよつとした広場になつていて、ベンチも何基か設置されているのですが、日差しを遮るもののが無いので夏向きではありません。そう言えば入城する時、大手門前で「天守閣再建」関係のチラシを配っていました。天守閣が再建された暁には観光の目玉になることは間違いないと思いながら、坂を下り「平川門」から皇居を後にしました。

続いて北ノ丸公園へ。高台の遊歩道から「千鳥ヶ淵」を見降ろすとボート乗り場が見えます。桜の季節には「花筏」となるところです。花を愛する人、カメラを構える人でごつた返すスポットですが、この時期は人もまばらです。「日本武道館」では弓道の大会が行われているようで、弓を携えた武道着姿の学生らしきグループを見かけました。外人観光客が目立ちます。そう言えば、

「木造の大きな門」を外国で見かけた記憶が無いように思います。以前外国人が開設した日本観光関係のHPで、「日本の門」を特集したサイトを見たことがあります。城や神社仏閣だけでなく、古い（一般）民家の「門」も取り上げていました。外国人の目には「グーラ」なのですね、きっと。

散策も終りに近づき、「アルカディア市ヶ谷」に12時半過ぎには全員無事到着しました。シャワー用として男女1部屋づつ確保くれていたのが有難かったです。1時間後、皆さつぱりとした姿で、総会会場に現れました。



# 第64回「東京とどの実会」

2014年6月21日(土)  
於／アルカディア市ヶ谷

## 世代ごとの記念撮影



昭和 21～26 年卒



昭和 38～39 年卒



昭和 43～44 年卒



昭和 27～29 年卒



昭和 40 年卒



昭和 45～48 年卒



昭和 30～34 年卒



昭和 41 年卒



昭和 52～平成 24 年卒



昭和 36～37 年卒



昭和 42 年卒





小山内会長（昭和26年卒）



桂名誉会長（昭和24年卒）



安藤札幌とどの実会会長（昭和35年卒）



来賓・小原とどの実会会長（昭和52年卒）



辰野清隆さん（昭和21年卒）



とどの実会関西支部

織田稔幸前会長（昭和40年卒）青木二郎部会長（昭和40年卒）



前田幹事長の決算報告



広川副会長（昭和42年卒）による乾杯の音頭



昭和41年卒有志による歌の披露

## 第64回 東京とどの実会の集い

64回東京とどの実会の集いは、平成26年6月21日（土）14:00から市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて開催されました。本年初の試みとなる、「学生の方無料」の呼びかけに応じた大学生参加者9名を含み、来賓、会員の方々115名が集いました。

今年の当番期会である柚木浩一さん（昭和46年卒）と吉見じゅりさん（昭和56年卒）の開会宣言で始まった総会は、冒頭、最高齢会員で今年4月に102才で亡くなられた吉見一朗先輩（昭和4年卒）のご家族からのお手紙が朗読されました。とどの実会に出席するのを毎年楽しみにしていたという内容に、一昨年まではお元気で出席されていた在りし日のお姿を偲び、一同冥福をお祈りしました。その後、長谷川徳二さん（昭和38年卒）のリードで校歌齊唱、小山内清孝会長（昭和26年卒）の挨拶に続き、前田良三幹事長（昭和40年卒）が決算報告を行い、満場一致で承認され、総会を終了いたしました。広川正三さん（昭和42年卒）の乾杯の音頭で始まった懇親会では、ご来賓の北見北斗高等学校校長千葉浩次様、とどの実会会長小原誠様よりご挨拶をいただき、終始和やかな語らいの場となりました。会の半ば、41年卒有志による「良い（41）友の会」による歌の披露がありました。曲は同期小櫻崇策さん作詞作曲の「同窓会」「北のかほり」です。練習の甲斐あって素晴らしいハーモニーでした。恒例となった集いの前に行われる散策報告（今年は皇居東御苑）、各期の写真撮影と続いた会は、「今日の日はさようなら」を全員で合唱した後、生駒篤副幹事長（昭和47年卒）の中締めで来年を期してめでたく散会となりました。現役大学生の参加が功を奏して大いに盛り上がり、かつ、平均年齢が大いに下がった総会となりました。



受付当番（昭和46年卒）の皆さん



司会の柚木さん（右）、吉見さん



散策参加の皆さん



世代を超えて楽しく歓談



中締め・生駒副幹事長（昭和47年卒）

# およせいただいた近況から

昭和40年卒 前田 良三

## 第三十三回関西とどの実会総会に参加して

3月8日（日）JR大阪駅にほど近

い大阪弥生会館で開催された関西とど

の実会・第33回総会に参加しました。

一昨年は織田稔幸会長（前）、昨年は

青木一郎会長（現）が東京とどの実

会総会に参加してくださいました。その

御礼の意味も含めて今回初めて伺つ

た。

関西とどの実会は現在会員数が約

300人、青木会長（昭和40年卒）、

工藤和男事務局長（昭和44年卒）が

中心になって運営されている。今回

の参加者は昭和29年卒から昭和44年

卒までの17人、又岡田侃己先生（社会

昭和39～48在職）も兵庫県から参加

されました。

学業、就職、転勤、結婚等々様々な縁で北海道から遠い関西の地で活躍されている方々は北見を離れてからの経験も環境も様々である。しかし、

多感な青春時代を同じ学び舎で過ごした同窓の仲間として集う喜びと懐かしさが深く心を通わせるのである。和やかな温かい雰囲気であった。出席者の自己紹介は勿論、各人の近況報告も興味深く大変楽しい総会でした。

若い世代の参加者がなく、年々参加者の平均年齢が上がってきているこ

となど、東京とどの実会と同様の課題を抱えていることもわかつた。東京と大阪は約五五〇キロと距離こそ遠いが、新幹線では僅か2時間の両地域、これからは連絡を密にして同じ北見北斗の同窓会組織の一つとして手を携えてとどの実会を盛り上げてゆきたいし、次の世代へ繋げたいと思っている。

総会・懇親会後に昭和40年卒の同期6人で二次会を設け旧交を温めた。

「関西とどの実会」で検索するとフェイスブックに活動の内容が見ることができる。

<https://www.facebook.com/kansai.todonomi>

海から東京湾の夜景を楽しむ東京湾クルーズを企画した結果、全国から87名という大変多くの方の参加があり、2次会も82名参加と大いに盛り上りました。

この様子は42期同期会のホームページに載っていますので是非ご覧ください。  
<http://kitamihokuto42.com/>



## 42期生、北斗入学50周年！



昭和48年卒 小野多恵子（旧姓松崎）  
深山佳子（旧姓中田）

## 還暦 今日この頃

初めての内地開催という事で何人の参加があるのか大変不安でしたが、女性幹事を中心に東京見物を兼ねた同期会＝レストランシップで

きょうは久しぶりに、2人吉祥寺でランチをしながら、この文章を書いています。

私たち昭和48年卒は、伊藤彰規君、矢萩典行君の絵や陶器の個展にかこつけて年1～2回集まり、飲み会を開いています。その時々で多少人数は変わりますが、現在でも、コンスタントに10人前後は集まっています。

さすがに若い頃に比べれば、お酒の量は減つてきていますが、気分は高校生に戻り、旧姓や「ちゃん」づけで呼びあって盛り上がり、毎回2～3人酔つぶれる人が出る始末です。

仕事や家族のことをしばらく忘れて、現在でも大切な時間を過ごせる仲間がいることをとても幸せに思っています。いつまでも元気で、これからも集まり、高校生時代に戻つて飲みたいものです。



川越での展覧会にて（背景は伊藤君の作品）

## 初めまして

平成23年卒 吉川 貴史

今回、初めて関東どとの実会に参加させていただきました。どとの実会という存在は高校時代から知つてはいたのですが、参加させていただくのは初めてだったので、正直どんなことをするのかも想像できず、に、「フラつと会場に向かいました。

同期と待ち合わせをし、会場に到着して最初に驚いたことは、年齢層の高さでした。

大先輩ばかりで、一番私たちと年齢が近い先輩が50期代の方々でした。しかしながら年齢の差を感じさせないくらいみなさんが若々しく、素敵な笑顔でどとの実会に参加していました。戸惑っていた86、87期の我々にみなさん優しく声をかけてきてくれました。先輩とのお話はとても面白く、為になりました。先輩とのお話はとても面白く、為になりました。先輩とのお話をかけてきてくれました。先輩とのお話をかけてきてくれました。先輩とのお話をかけてきてくれました。

話はかりでした。正直学生時代に年の離れた先輩方とお話しする機会は限られていて、とても貴重な体験ができました。

会場ではおいしい料理とお酒を楽しみ、いろいろな代の先輩方と交流を深め、3、4年ぶりに校歌を歌つたりしました。OBの方のご厚意で二次会にも呼んでいただきました。

とどの実会が終わって電車に乗っているときに考えていたことが一つあります。それはこんなに素敵な会に、もっと若い世

## 『東京どとの実会』に若い世代が参加してくれました

代も参加してほしい。もっともっと盛り上がりたいってほしい、ということです。会場で議事進行をされていた方や、今回連絡をくださった前田様をはじめ、たくさんのOBの方々が創り上げてくださったどとの実会を、私たち同じ高校の同志として、みんなで盛り上げていきたいと感じました。ぜひ次回も参加させていただきたいと思いました。

## おつかなびつくりの参加

平成23年卒 田中啓太郎

しかし、どういう環境がそこにあろうと、私自身がどとの実会の会員であることに変わりはありません。東京どとの実会に参加すれば、必ず同窓の先輩方が温かく迎えてくれる。これほどの拠り所はないと思いません。

また、私たちよりも若い卒業生が毎年毎年生まれ、どとの実会員になっています。私が感じたような安心感を、彼らにも与えていかなければならぬ使命感も抱きました。連綿と続いてきたどとの実会のバトンをしっかりと受け取り、繋いでいきたいです。

最後になりましたが、この度は招待していただきありがとうございました。今後もどうぞよろしくお願ひいたします。

識するようになりました。家族という無条件に受容してくれる存在から巣立つたために、何かに所属していないと糸が切れた糸のようになってしまいます。そんな寂しさは今でも心のどこかに隠れています。東京どとの実会は、一本の糸になりえる集まりではありませんでしょか。この四月から私は就職して社会に出ていくのですが、おつかなびつくりどとの話ではない不安を最近ひしひしと感じています。どんな同期がいてどんな先輩に出会つてどんな仕事が待ち受けているのか。不安を抱いている以上に厳しい世界が待つているのかもしれません。

東京とどの実会

●会員数	1,455人	2014.12.31 現在
会費納入数	271人	2014 年度
●総会出席者数		
2013年	99人	中野サンプラザ
2014年	115人	アルカディア市ヶ谷



母校の現在の姿（北星北斗高校 HP より）

平成 25 度会計報告書

自 25年4月1日  
至 26年3月31日

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	1,293,247	会合費 / 消耗品費	37,122
年会費収入	622,000	印刷費	180,000
総会費収入	644,000	総会費	701,111
寄付金収入	212,000	通信交通費	177,795
預金利息	117	支払手数料	30,190
		渉外費	96,827
		次期繰越金	1,548,319
合計	2,771,364	合計	2,489,577

物故者一覧	(2014年)
ご冥福をお祈りいたします。	
昭4年卒	吉見 一朗
昭22年卒	高橋 豊
昭23年卒	新飯田 悅男
昭26年卒	山上 嘉一
昭27年卒	倉石 兼太郎
昭28年卒	星野 哲勇
昭35年卒	江口 利博
昭36年卒	田畑 育男
昭37年卒	小林 公子(上野)
昭41年卒	児玉 節
敬称略( ) 内は旧姓	

編集後記

○関東に住んで数十年、雪のない冬に慣れてしまった。

故郷北見はこの冬大変な大雪だったそうだ。除雪費用が数十万円もかかったと聞く。大雪のニュースを見て懐かしく思いつつ、旧友の苦労に思いを馳せている。(Y.M)

○昨年の総会は大学生を9人が参加し、若者を交えての懇親会はこれまで以上に盛り上りました。今年原稿を寄せていただいた大学生は80期代の方々ですが、昭和卒業期と異なり分かれにくいため、会報の中で〇〇期としていた表記を平成卒業の世代にも分かりやすいようにと、昭和〇〇年卒、平成〇〇年卒と改めました。この会が若い人たちに受け継がれていきますようにと願ってやみません。(H.I.)

### 頑張った思い出の一品



強行遠足 3年連続完走バッジ!